圭陵會々報

発行所
岩手医科大学圭陵会
〒020-8505盛岡市内丸19の1
Tel 019(651)5111番
Fax 019(624)8380番
URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字　三田定則　先生書
発行人　石川　育成
編集人　酒井　明夫
印刷所　山口北州印刷

10　月　号

学校法人岩手医科大学
名誉理事長・名誉学長　故 大堀　勉 先生
学校法人岩手医科大学葬

平成24年7月7日(土)　岩手県民会館大ホール

葬儀の模様

学校法人岩手医科大学名誉理事長・名誉学長　大堀　勉先生の学校法人岩手医科大学葬は、小川　彰学校法人岩手医科大学理事長・学長を葬儀委員長として、去る七月七日午後一時から岩手県民会館大ホールにおいてしめやかなうちにも厳粛に執り行われました。

正面の蘭と菊の花で飾られたステージには亡き先生の大きな御遺影が掲げられ、式場には御遺族、各界を代表する弔問者をはじめ本学職員、圭陵会関係者など二千人あまりの参列者で埋め尽くされました。

式は祖父江憲治岩手医科大学副学長の開会の辞のあと、今は亡き先生の御遺徳を偲び、参列者全員で一分間の黙祷を捧げ、ついで小川　彰理事長の追悼の辞、達増拓也岩手県知事、川崎明徳日本私立医科大学協会相談役、石川育成圭陵会会長・岩手県医師会会長、山内文俊医療法人社団恵仁会三愛病院理事長、川村光朗矢巾町長の弔辞奉読が行われました。

葬儀はその後、弔電奉読についで葬儀委員長、大学役員、御遺族、御来賓の方々の氏名献花、葬儀委員長の挨拶、御遺族代表大堀　學様の謝辞と続き、最後に参列者の献花で幕を閉じました。

なお、参列者全員には、書をよくした先生の御遺墨「一座建立」の色紙が配られました。

先生は温厚篤実なお人柄で教室員をはじめ各界の方々に慕われ、教育、地域医療等各方面においてトップリーダーとして手腕を発揮された巨星のお一人でした。

このような貢献に対し、平成九年岩手県勢功労者顕彰、平成十二年盛岡市勢振興功労者表彰、同年勲二等瑞宝章を受けられました

式次第

開式の辞
黙祷
追悼の辞
弔辞
弔電奉読
指名献花
葬儀委員長挨拶
遺族代表謝辞
献花式
閉式

目次

故大堀　勉先生，学校法人葬……1
大堀先生追悼特集号へのお願い……15
圭陵会本部だより
石川育成圭陵会会長ご挨拶……16
小川　彰理事長・学長ご挨拶……17
代議員会・総会……20
支部だより……28
医学部同窓会だより
評議員会・総会……29
歯学部同窓会だより
支部長会……39
評議員会・総会……40
岩手医科大学入試概要……52
学術振興会研究助成・褒賞……57
薬学部学業奨励奨学生の表彰……61
表彰の栄誉・FAXニュース……62
学生活動優秀賞受賞……66
お祝い・ご逝去・編集後記……70

圭陵会本部だより

圭陵会会長ご挨拶

圭陵会会長　石川育成

先生方には遠路、またご多忙のところご来会をいただきまして、本当にありがとうございます。

圭陵会の運営につきましては、日ごろより先生方から多大のご支援とご協力をいただき、おかげさまで円滑に事業が遂行できていると存じており、厚く御礼申し上げます。

昨日は例年どおり支部長・参与会を開催いたしました。その後の懇親会の席で理事長　小川　彰先生、医学部長　小林誠一郎先生、附属病院長酒井明夫先生の祝賀会と思っておりましたが諸般の事情から会長一存で就任祝いではなく、激励する会と名を変えて開催をいたし、各先生方から就任のご挨拶をいただいたところでございます。

又、各支部長あるいは代議員の先生方とも十分な意見交換ができまして、大変有意義な時間を過ごすことができたと思っております。

昨年は東日本大震災により東北地方の沿岸部を中心に大災害に見舞われ、多くの会員が被災されました。

その被災された会員並びにご家族に改めてお見舞いを申し上げますとともに、圭陵会として募った義援金に全国の支部及び会員の皆様から多大のご支援を頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。頂戴いたしました義援金は、被災された会員の皆様への支援に活用させていただきたくお送りしたところであります。

加えて、現在も岩手医大と多くの圭陵会員が岩手県医師会、岩手県歯科医師会などと協力をいたしまして、被災地の医療の再建に取り組んでいるところでございますが、その道のりはかなり遠いというような実感をいたしております。

今後とも皆様のご支援をお願いいたすところでございます。

一方、大学におきましては、昨年は総合移転整備計画第二次事業が完成したその直後に大震災が発生しましたが、その困難な状況の中で矢巾キャンパスへの医学部・歯学部基礎講座の移転が行われ、医学部・歯学部・薬学部の三学部が一体となっての教育・研究が始まっております。

また、本年度におきましては、四月には災害対策の一環として国庫助成を受けまして、災害医学講座の開設、また地震の揺れを免れるという完全免震で独自の非常用発電装置を備え、岩手県全県の医療データを一括管理できる災害時地域医療支援センター機能を持つマルチメディア教育研究棟の建築に着手をいたしました。五月には矢巾キャンパスへリポートからのドクターヘリの本格運用、来年三月には薬学部が初めて卒業生を輩出するという完成年度を迎えております。

そして、総合移転計画の最後の事業として、附属病院の矢巾移転、内丸メディカルセンターの整備事業が開始されます。

大学と表裏一体の立場である同窓会がともに力を合わせていくことが必要でありますので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日は、代議員会におきまして圭陵会の事業の進め方等につきまして幹事長並びに担当者より報告または提案を申し上げます。特に本年度は、来年三月に薬学部卒業生が初めて輩出されるということから、圭陵会の事業局に薬学部同窓会局を設置して在校生への支援事業の開始、また今後の薬学部同窓会設立に向けての提案が議題として含まれておりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

皆様方より多くのご意見を賜り、今後の圭陵会の運営について反映させまして、支部・会員との一層の交流を図り、学生支援の充実に向けた努力をしてまいりたいと、考えておるところでございます。

今後ともよろしくご支援をお願いいたしまして、挨拶といたします。

本日はご苦労さまでございます。

（平成二十四年度圭陵会代議員会　石川圭陵会会長挨拶より）

岩手医科大学同窓会　圭陵会　会長
岩手県医師会　会長　石川　育成

岩手医科大学名誉理事長・名誉学長、同窓会圭陵会顧問、岩手県医師会顧問　故大堀　勉先生の御霊の前に、圭陵会、並びに岩手県医師会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

「巨星墜つ」。大堀　勉先生のご逝去に最も相応しい響きを感じます。

長い闘病生活を強いられながらも、一言も弱音を吐かず、まさに大病との死闘でありました。最後は刀折れ矢尽きてしまいましたが、病に敢然として立ち向かう医師としての大往生だと思っております。

五月二十二日、ご長男から今日は具合がいい様だとお電話を頂きました。岩手医大ＩＣＵでの僅かな時間ではありましたが、私の手を力強く握り、笑顔を絶やすことなく会話が出来ました。私にとって貴重なひと時であり、示唆に富む一言一言を克明に覚えております。あれから十六日目に残念ながら幽明境を異にしてしまいました。

先生は岩手医学専門学校を卒業後、慈恵医科大学泌尿器科学講座の講師、医局長をつとめるなど研鑽を積まれ、昭和三十五年に母校の泌尿器科学講座助教授として着任し、四十一年教授に昇進されて多くの優秀な泌尿器科医を育て、教室の発展に大きく貢献されたことは誰しもが認めているところであります。

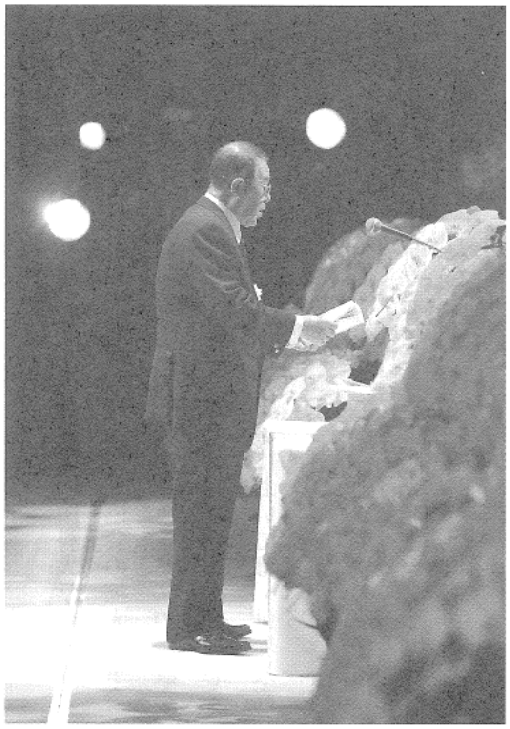
先生が母校に戻られた直後から、第二外科講座の医局員だった私は、何かと目をかけて頂きました。公私共にお世話になり、ご指導頂きましたことに改めて心から感謝を申し上げます。

医師会活動にもご熱心で、岩手県医師会の顧問を勤めるなど大所高所からの数々のご助言を頂きました。また、「大学も早く医師会を設置すべき」が持論でありましたし、大学医師会設置後自ら会長職を担うなど積極的に活動されました。

先生は表彰、受賞も数多く、主なものだけでも平成九年の岩手県勢功労者顕彰、十二年には勲二等瑞宝章、また盛岡市勢振興功労者表彰、福島県会津坂下町名誉町民推戴、福島県外在住功労者知事表彰など、先生の多方面に亘るご活躍の為せるものでありましょう。

先生が自ら主導した矢巾キャンパス構想の「総合移転整備計画第二次事業」も完成し、矢巾キャンパスで医学部、歯学部、薬学部の三学部が一つになって教育、研究が始まっております。これは日本で初めてのことであり、来年三月には薬学部第一回卒業生が輩出されます。

また、本年度は災害医学講座の開設、災害時地域医療支援教育センターの建設、ドクターヘリの本格運航、そして附属病院移



転、内丸メディカルセンター整備事業と大事業が続きます。

昨年の同窓会圭陵会の代議員会と総会は新しい「大堀記念講堂」で開催されました。体調が優れず、主治医の反対を押し切って車椅子で出席してご挨拶され、出席代議員のお帰りを講堂の外で一人ひとりと「ありがとう、ありがとう」と感謝の固い握手をしながら見送られた姿が思い出されます。

今年は残念ながら、同じ大堀記念講堂で代議員各位に先生のご逝去を報告する事になってしまいました。

先生の生涯唯一の夢を描いた矢巾キャンパス構想も逐次計画通りに進捗しております。この大事業の最終章を一日でも早く瞼に焼き付けたかったであろう先生の無念の胸中を察するとき、世の無常を感じざるを得ません。

今後は小川　彰理事長・学長を中心に、大堀構想の最終章を一日も早くご報告できますよう関係各位と力を一つにして頑張ってまいります。どうぞ見守って下さい。

お名残は尽きません。今は唯、先生の天涯における日々がいつまでも安らかであることを念じ申し上げ、ご遺族に対する末長いご加護を賜りますようお願いし、ご冥福をお祈りしながらお別れ致します。

長い闘病生活でお疲れのお体をゆっくり休めて下さい。先生、さようなら。合掌。